

産婦人科にかかわる 医用技術の新たな進歩 I

企画者のことば

末岡 浩

医療に用いられる技術が、薬品や資材などの開発および導入によって、日夜進化を遂げていることはあらゆる医療領域にとって喜ばしいことです。これらの新しい技術が海を越えてわが国にもたらされたものも少なくない一方で、わが国を主体に発展している技術も大いに期待できるものです。これらの医用工学や分子生物学における技術開発などが、近年、産婦人科診療においても盛んに導入されています。本特集では、これらの新たな取り組みについて、産婦人科診療を中心として、集約的な理解を深めるための企画といたしました。

執筆いただきました専門家には、新たな技術に取り組んでおられる実務者にご担当いただき、これらの技術がわが国の医療の発展に還元できる独自の技術として、ご紹介いただいております。

大変に幅広い分野にまたがる技術について、なるべく網羅できるように企画しましたが、遺伝子関連、がんや生殖医療、感染症に対する取り組み、手術に用いるロボットなどの開発、妊娠に関わる薬品や技術など、多様な内容に及んでいます。いずれも臨床医にとって身近で、診療内容に直接かわる様々な事柄を多く含んでおり、新たな医療導入に理解を深めるのに役立てられることを期待しております。

一方で、技術開発競争のなかにおけるわが国発信の技術が求められており、その取り組みを官民一体となって進める必要性にも気づくと思います。新たな技術の導入は、わが国の患者にとっても新たな選択肢への期待と朗報にもなる一方で、医療者に対してもわが国の医療が海外技術に依存せず、競い合う開発によって将来の世界をリードする医学界の発展へ広がることを期待するものです。これらの知識を共有し、新たな技術に対する向き合い方を考えるきっかけになれば幸いです。